

令和 8 年度土木学会全国大会

第 81 回年次学術講演会

実施要領（詳細版）

実施期日……2026 年 9 月 2 日(水)～4 日(金) の 3 日間

（全国大会：8 月 31 日(月)～9 月 4 日(金)の 5 日間）

実施場所……北海学園大学豊平キャンパス・北海商科大学（年次学術講演会）

札幌市教育文化会館（特別講演会・全体討論会）

札幌ガーデンパレス（交流会）

講演申込期間---2026 年 3 月 2 日(月)12 時から 3 月 31 日(火)17 時まで

講演申込資格---土木学会会員・海外の協定学協会会員に限る（法人会員は対象外です）

※申込者が講演者です。

・新規入会の方：2026 年 3 月 6 日(金)17 時までに入会手続き（入会申込、入金まで）をお済ませください。

完了していない場合、講演申込できません。

※2026 年 3 月 6 日（金）17 時までに入会手続きが完了した場合でも、入会日を 2026 年 3 月 6 日（金）以降に設定した場合は講演申込ができませんのでご注意ください。

※入会手続き後、講演申込が可能になるまで 10 日間ほどかかりますので、余裕をもって手続きを行ってください。

・既会員の方：会費を滞納している方は講演申込できませんので、2026 年 2 月末日までに本年度(2025 年度)

会費をお支払いください。

当実施要領（詳細版）を熟読の上、お申し込みください。

・講演申込は、ウェブフォーム(参加登録システム Confit)から行っていただきます。E-Mail、郵送、原稿持参による受け付けは致しません。

・講演申込には、土木学会の会員登録情報に登録されているメールアドレスが必要となります。

（参加登録システム Confit のアカウント情報とは別になります）

メールアドレスが未登録の方、変更がある方は、2026 年 2 月 19 日(木)17 時までに必ず[会員専用ページ](#)にて更新をお願いいたします。また、土木学会の会員登録情報に、複数人で同じメールアドレスを登録している場合は重複しないそれぞれのメールアドレスの登録が必要となります。

・講演概要集は、ウェブ閲覧形式のみとなります。

・**口頭発表**：1 題あたりの講演時間について、質疑時間を除き原則として 7 分間（従来のとおり）を予定しています。

・講演申込を取り下げる場合は、必ず 2026 年 3 月 31 日(火)17 時までに講演申込の取り消しを行ってください（投稿料をお支払いの場合は、聴講料として取り扱いさせていただきます）。

・2026 年 4 月 3 日(金)17 時以降の講演原稿の修正、登録内容の変更はできません。（p.5 に詳細を掲載しております）

・投稿原稿は PDF ファイル形式で受け付けます。A4 判タテ型 2 頁を厳守ください。

・講演申込画面の和文概要には、社会に対する役割を踏まえて、研究の目的、要旨（特色）、結論を 300 字以内で簡明に記述してください。また、ウェブフォームには英文タイトルも必ず記入してください。

・聴講参加者は聴講申込が必要です。

・土木学会の CPD（継続教育）対象プログラムです。

目次

・日程一覧……………2	1. 年次学術講演会の概要……………3
・講演者・聴講者の資格と参加費……………2	2. 講演申込方法……………5
・問合せ先一覧……………3	3. 聴講のみで参加される方……………7
	・共通セッションテーマ……………9
	・部門別セッション名……………12
	・講演原稿執筆要領……………14

●日程一覧

(年次は西暦 2026 年)

月	講演者	聴講者
3	講演申込の受付開始：3月2日(月)12時～ ※新規入会の方：3月6日(金)17時までに入会手続(入会申込、入金まで)をお済ませください。完了していない場合、講演申込できません。 講演申込の締切：3月31日(火)17時まで	
4	講演申込の確認：4月1日(水)13時～3日(金)17時まで 投稿料の支払い： 4月3日(金)17:00までに講演申込画面より、コンビニ支払いまたはクレジットカード支払い手続を行ってください。	
6		聴講申込受付開始：6月8日(月)13時～ ※以降の受付日時・期間は下記表(●講演者・聴講者の資格と参加費)に記載の内容を参照ください。
	https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/ において年次学術講演会プログラムなどの掲載(6月中旬)	
7	学会誌7月号もしくは8月号において大会案内を掲載予定	
8	・8月上旬にご登録のE-mailアドレスに講演概要集公開サイトへのアクセス方法をお知らせいたします ※講演概要の公開日は8月3日(月)予定です。 ・8月中にご登録のE-mailアドレスに入場証(QRコード付名札)をメールいたします ※参加費の支払い手続がお済みでない場合、講演概要集公開サイトへのアクセス方法と入場証(QRコード付名札)は届きません。	
9	年次学術講演会：9月2日(水)、3日(木)、4日(金)の3日間、 全国大会：8月31日(月)～9月4日(金)の5日間	

●講演者・聴講者の資格と参加費

(年次は西暦 2026 年)

		聴講者(聴講料)			
		早期割引期間		通常料金期間	
		講演者(投稿料)		大会期間中 ※クレジットカード決済のみ	
資格		土木学会会員・海外の協定学協会会員に限る※1		会員(個人)	非会員
参加費	一般	10,000円※2	10,000円※3,5	22,000円※3,4	15,000円※3,5 22,000円※3,4
	学生	7,000円※2	7,000円※3,5	11,000円※3,4	10,000円※3,5 11,000円※3,4

※会員(個人)の投稿料・聴講料は、不課税です。※非会員の聴講料は内税(消費税10%)です。

※1 3月6日(金)17時まで以下記入会手続(入会申込、入金まで)を完了していれば、講演申込ができます。それまでにご入会ください。(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください <https://www.jsce.or.jp/member/>)

※ 3月6日(金)17時までに入会手続が完了した場合でも、入会日を3月6日(金)以降に設定した場合は講演申込ができませんのでご注意ください。

講演申込および聴講申込締切間際には事務処理の混雑が予想されますので、十分な余裕をもって入会諸手続をとられるようお願いいたします。学生で大会開催までに卒業予定の方の参加費は、申し込み時点での資格となります。

入会手続※詳細は土木学会ウェブサイトの入会案内をご確認ください。

<https://committees.jsce.or.jp/member/information>

・インターネット入会の場合：①インターネット入会手続、②会費納入(クレジットカード、コンビニエンスストア(受付番号))

・郵送入会申込の場合：①入会申込書、②会費(現金書留)を同封する。

【注】現金書留の場合、クレジットカード・コンビニエンスストア利用より手続完了まで時間を要します。十分に余裕をもってお手続をお願いします。土木学会窓口での入会受付は、行っておりませんのでご注意ください。

※2 投稿料には参加費、講演概要集代(ウェブ閲覧形式)が含まれています。

※3 聴講料には参加費、講演概要集代(ウェブ閲覧形式)が含まれています。

※4 非会員の聴講料は割増になります。

※⁵ 8月21日(金)17時までに入会手続き（入会申込、入金まで）を完了していれば、8月26日(水)より会員での聴講申込ができます。8月21日(金)17時までに入会手続きが完了した場合でも、入会日を8月22日(土)以降に設定した場合は会員価格での聴講申込ができませんのでご注意ください。

早期割引期間（8月下旬）を過ぎますと、通常の聴講料を頂戴いたします。

◆問合せ先一覧◆

問合せ内容	担当	E-mail・Tel	営業時間
年次学術講演会 講演・聴講申込方法 システム(Confit) 関連	第81回年次学術講演会 ヘルプデスク (株)ソウブン・ドットコム に委託)	jsce_support@soubun.biz Tel: 03-6420-2161 受付期間: 2026年3月2日(月) ～9月30日(水)	平日 9:30-17:30
上記以外のお問い合わせ	土木学会事務局 総務課 全国大会係	office2@jsce.or.jp Tel: 03-3355-3442	平日 9:00-17:30
会員入会手続き・ 会員番号 関連	土木学会事務局 会員・企画課	member@jsce.or.jp Tel: 03-3355-3443	

※お問い合わせ内容を正確に把握するため、メールでのご連絡にご協力いただけますと幸いです。

※2026年8月31日(月)～9月4日(金)は、全国大会運営のため、土木学会事務局総務課全国大会係は不在となります。期間中は、メールでのお問い合わせは受け付けをしておりますが、回答については2026年9月7日(月)より順次対応させていただきます。皆さまには御迷惑、並びにご不便をお掛けいたしますが、よろしくお願いいたします。

1 年次学術講演会の概要

(1) 実施期日—2026年9月2日(水)、3日(木)、4日(金)の3日間

(2) 実施場所：北海学園大学豊平キャンパス、北海商科大学

(3) 講演部門

講演部門は次の7部門および共通セッションからなります。

第Ⅰ部門—応用力学、構造工学、鋼構造、風工学、等

第Ⅱ部門—水理学、水文学、河川工学、水資源工学、港湾工学、海岸工学、海洋工学、環境水理、等

第Ⅲ部門—土質力学、基礎工学、岩盤工学、土地地質、地盤環境工学等（主な論点が地盤工学に関するものであること）

第Ⅳ部門—土木計画、国土・地域・都市計画、交通計画、交通現象分析、交通運用管理、景観・デザイン、土木史、測量、等

第Ⅴ部門—土木材料、舗装工学、コンクリート工学、コンクリート構造、木材工学、等

第Ⅵ部門—建設事業計画、設計技術、積算・契約・労務・調達、施工技術、環境影響対応技術、維持・補修・保全技術、建設マネジメント、等（主な論点が建設工事に関するものであること）

第Ⅶ部門—環境計画・管理、環境システム、用排水システム、廃棄物、環境保全、等

（いずれの部門においてもその部門に関連した地球環境問題を扱う。）

—共通セッション—

第Ⅰ～第Ⅶ部門の枠を越えた複数の部門に関連する研究のテーマを対象として、共通セッションを設けます。本年度の共通セッションのテーマは、公募によるテーマから以下に示す22件が仮テーマとして選定されました。共通セッションの最終的なテーマ名は講演申込完了後に決定されます。

CS1 土木教育一般

CS2 International Session 国際セッション
(The 28th International Summer Symposium)

CS3 新設および大規模改修時における橋梁計画

CS4 ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン (DEI)

CS5 計算力学・データサイエンス・V&V/UQ

CS6 複合構造物

CS7 橋と社会

CS8 無電柱化整備の計画と技術

CS9 土木分野における計測・センシング技術の利用と可能性

CS10 地震工学・地震災害

CS11 構造物の設計／維持管理におけるAI/DX

CS12 放射性廃棄物・放射性物質汚染廃棄物等の処理・処分

CS13 橋面舗装（舗装、防水層、床版を共に考える）

CS14 土木分野におけるAIの活用

CS15 気候変動・地球環境問題

—水工学委員会・地球環境委員会共催セッション

CS16 地下空間の多角的利用

CS17 データ連携とプロセス改革

CS18 地域における建設産業のこれからのあり方

CS19 道路橋床版・防水工・舗装の設計・維持管理に関する長寿命化技術

CS20 デジタルツイン・データプラットフォーム・DX

CS21 宇宙開発と土木技術

CS22 CCUS（二酸化炭素回収・利用・貯留）

(4) 講演内容

年次学術講演会にふさわしい内容を備えたものとし、原則として未発表のものとしします。

(5) 講演時間

口頭発表：1題あたりの講演時間について、質疑時間を除き原則として7分間（従来のとおり）を予定しています。

(6) 講演方法

個人発表のみとします。発表では、聴講者が発表自体に集中できるように配慮してください。※講演時も会員資格が必要となります

(7) 講演申込題数

全部門を通じて講演者(登壇者)1人につき1題に限ります。

(ただし、共通セッション「土木教育一般」または「ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン」へ講演申込する場合は、研究関連セッションと合わせて2題のお申し込みが可能です。各部門の会場をご確認の上、「土木教育一般」または「ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン」と研究関連セッションへの投稿をお考えの場合は、全国大会係へお問い合わせください。)

※土木学会国大会係 office2@jsce.or.jp

(8) 優秀講演者表彰について

優れた講演を行った若手研究者、技術者を表彰いたします。
<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/263>

(9) その他

英語による講演も歓迎します。英文講演概要は、和文執筆要領に準じて作成してください。

(10) 講演概要集

講演概要集は、ウェブ閲覧形式のみとなります。

2 講演申込方法

(1) 講演申込資格

講演申込ができるのは、2026年3月6日(金)時点で土木学会の会員(個人)に限ります(法人会員は対象外です)。

非会員の方は、2026年3月6日(金)17時までに土木学会入会手続き(入会申込、入金まで)を完了してください。

(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください
<https://www.jsce.or.jp/member/>).

※2026年3月6日(金)17時までに入会手続きが完了した場合でも、入会日を2026年3月6日(金)以降に設定した場合は講演申込ができませんのでご注意ください。

入会手続き後、講演申込が可能になるまで10日間ほどかかりますので、余裕をもって手続きを行ってください。講演申込の際、生年月日の入力が必要となります。

協定学協会会員の申し込みは、協定学協会名を明記の上、会員であることがわかる資料(会員証等)の写しとともに、下記の全国大会係へご連絡ください。

※土木学会全国大会係 office2@jsce.or.jp

海外の協定31学協会(略称アルファベット順)

- 1.ASCE(米国土木学会)
- 2.CCES(中国土木工程学会)
- 3.CICHE(中国土木水利工程学会)
- 4.CNISF(フランス科学・技術者会議)
- 5.CSCE(カナダ土木学会)
- 6.EA(オーストラリア工学会)
- 7.ECCE(ヨーロッパ土木技術者評議会)
- 8.EIT(タイ工学会)
- 9.FECIC(メキシコ土木学会)
- 10.HAKI(インドネシア土木構造工学会)
- 11.HKIE(香港工程師学会)
- 12.ICE(英国土木学会)
- 13.IEB(バングラデシュ工学会)
- 14.IEI(インド工学会)
- 15.IEM(マレーシア工学会)
- 16.IEP(パキスタン工学会)
- 17.IES(シンガポール工学会)
- 18.KDPA(韓国防災協会)
- 19.KSCE(大韓土木学会)
- 20.MACE(モンゴル土木学会)
- 21.MES(ミャンマー工学会)
- 22.MPWT,JICA,ITC(カンボジア公共事業運輸省,
国際協力機構,カンボジア工科大学)
- 23.NEA(ネパール技術者協会)
- 24.PICE(フィリピン土木学会)
- 25.PII(インドネシア工学会)
- 26.SVR(スウェーデン土木構造工学会)
- 27.TCCE(トルコ土木学会)
- 28.TCG(ギリシャ工学会)
- 29.VASECT(ベトナム構造建設技術協会)
- 30.VFCEA(ベトナム土木協会)
- 31.VIBRA(ベトナム橋梁道路協会)

(2) 講演申込方法

講演申込はウェブフォームからの受け付けのみとなります。E-Mail、郵送、原稿持参による受け付けはできません。原稿のファイル形式はPDFとなります。

2026年3月2日(月)12時～3月31日(火)17時までの期間内に、土木学会全国大会ウェブサイトから講演申込を行ってください。

土木学会全国大会ウェブサイト

<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/>

※一度登録した講演者の変更は、講演申込期間中であっても行えません。講演者を変更されたい場合は、講演申込期間中に一度申し込みを取り消しし、新規で講演申込をお願いします。

※2026年3月31日(火)17時以降の講演申込の取り消しはできませんので、取り下げる場合は上記期日までに手続きを行ってください(投稿料をお支払いの場合は、聴講料として取り扱いさせていただきます)。

講演申込をした講演原稿が正しく登録されているかどうかの確認期間を2026年4月1日(水)13時～3日(金)17時まで設けます。講演者自身で土木学会全国大会ウェブサイトから確認してください。

※確認期間中(2026年4月1日(水)13時～3日(金)17時)

は、登録内容の修正を行えますが、下記については変更不可となりますので、ご注意ください。

①希望セッションの変更 ②講演申込の取消

※講演者の変更はできません。

※2026年4月3日(金)17時以降の講演原稿の修正、登録内容の変更はできません。

原稿は最終ページの「講演原稿執筆要領」に従ってご執筆ください。

連番での発表を希望される場合は、講演原稿の投稿画面の項目「講演の連番希望」の欄に、連番を希望する相手の①講演者、②タイトル、③希望する講演順(3講演以上の場合は全て記入)、をご記入ください。

※連番を希望する両者とも記載してください。

また、連番を希望する相手と同様のセッションを選択してください。

申し込み時の所属先情報が講演申込時と講演当日で異なる場合、講演申込時の情報をご入力ください。会員資格も、講演申込時の情報で申し込みをしてください。※ご連絡先については、2026年4月1日以降も繋がる連絡先のご入力をお願いいたします。

申し込み期間締切り間際に投稿が集中しますと、予期せぬ事態によりサーバーがダウンし受け付けができなくなる恐れがあります。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。

(3) 講演概要集・入場証

2026年8月上旬にご登録のE-mailアドレスに講演概要集公開サイトへのアクセス方法をお知らせいたします。

2026年8月中にご登録のE-mailアドレスに入場証(QRコード付名札)をメールいたします。現地会場に入場するために

は入場証（QR コード付名札）をプリントアウトしたものが必要となります。受付には、印刷用のプリンタはありませんので、必ずプリントアウトした入場証（QR コード付名札）をご持参ください。会場内でも、プリントアウトできる場所はありません。

入場証（QR コード付名札）のメールが届かない場合は、2026 年 8 月 28 日(金)までに[第 81 回年次学術講演会ヘルプデスク](#)へお問い合わせください。

現地受付の端末機で入場証の QR コードを読み取り、来場登録をしてください。大会 3 日間とも参加される方は、各日 QR コードの読み取りを行ってください。また、会場内では必ず入場証をパスケースに入れて、氏名が見える状態で首にお掛けください（氏名が確認できない場合お声掛けさせていただく場合があります）。

入場証（QR コード付名札）のケースは会場に用意しております。

(4) 投稿料

投稿料は講演 1 件につき（聴講料、ウェブ閲覧式講演概要集代含む）、正会員 10,000 円、学生会員 7,000 円になります。

※投稿料は不課税です。

2026 年 4 月 3 日(金)17:00 までに講演申込画面より、コンビニ支払いまたは、クレジットカードでの支払い手続きを行ってください。

1) 領収書について

入金確認が行われると、Confit のマイページから領収書がダウンロードできるようになります。指定期間内にダウンロードください。（発行方法ご参照：

<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/217>）

※個別の領収書の発行は行いません。

2) 複数の参加者の参加費をまとめる、後払いの手続きなど、請求書の発行は行いませんので、ご了承の程お願いいたします。

なお、投稿料は前払いとなります。講演申込を取り下げた場合も、返金いたしません。

(5) 採否

採否については、全国大会委員会に一任ください。

所定期間までに原稿提出のないもの、講演原稿執筆要領に準じていないものは、講演概要集への掲載および大会での発表はできません。

(6) 著作財産権の譲渡について

著作財産権は投稿により土木学会へ譲渡に同意したものと なります。

(7) プログラム編成について

講演者の希望する部門とセッションを参考にしますが、プログラム編成は全国大会委員会に一任ください。また、プログラムに対する異議申し立ては、認めません。

聴講のみで参加される方

年次学術講演会に聴講者として参加される方（連名者含む）は、聴講申込を行ってください。

講演者は、改めて申し込みする必要はありませんが、連名者で参加する方は講演者とは別に聴講申込が必要です。

聴講申込受付期間：2026年6月8日(月)13時～大会当日まで

なお、2026年7月24日(金)17時～7月30日(木)まではデータ移行期間のため申し込みできません。

講演プログラムなどの詳細につきましては、2026年6月中旬に土木学会全国大会ウェブサイトで公表しますのでご参照ください。

(1) 聴講申込資格

土木学会会員（個人）、非会員いずれも可能です。ただし、聴講料が異なります。非会員の方はこれを機会に学会への入会をお勧めします。（法人会員は対象外です）

(2) 聴講料

聴講料（参加費、ウェブ閲覧形式講演概要集代を含む）は、土木学会の会員（個人）、非会員の別、および早期割引期間と通常料金期間によって、料金が異なります。下表をご覧ください。

なお、会員として聴講申込をされる方は、2026年8月14日(金)17時までに入会手続き（入会申込、入金まで）を完了してください。2026年8月24日(月)より、会員での聴講申込が可能となります。

※2026年8月14日(金)17時までに入会手続きが完了した場合でも、入会日を2026年8月14日(金)以降に設定した場合は会員価格での聴講申込ができませんのでご注意ください。

（年次は西暦2026年）

		聴講料	
		早期割引期間	通常料金期間
		期間① 6/8(月)13時～7/24(金)17時まで 期間② 8/3(月)～8/28(金)17:00まで ※ 7/24(金)17時～7/31(金)の間はデータ移行期間のため、申し込み不可 ※ 期間②はクレジットカード決済のみ	大会期間中 ※クレジットカード決済のみ
会員	一般	10,000円	15,000円
	学生	7,000円	10,000円
非会員	一般	22,000円	22,000円
	学生	11,000円	11,000円

※会員（個人）の聴講料は不課税です。

非会員の聴講料は内税（消費税10%）です。

※早期割引期間に聴講申込をされても、早期割引期間内に聴講料のお支払い手続きがお済みでない場合は、早期割引期間の聴講料となりませんのでご注意ください。

※お支払い済みの聴講料の返金はできません。

※大会会場での聴講申込受け付けはありません。事前にウェブフォームよりお申し込み・お支払い・メール添付にて送付される入場証（QRコード付名札）を印刷の上、ご来場ください。

(3) 聴講者の登録参加申込方法

土木学会全国大会ウェブサイト

<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/> から聴講申込を行ってください。聴講料は、聴講申込画面からコンビニ支払いまたは、クレジットカードでの支払い手続きを行ってください。

1) 領収書について

入金確認が行われると、Confitのマイページから領収書がダウンロードできるようになります。指定期間内にダウンロードしてください。

（発行方法ご参照：

<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/node/217>）

※個別の領収書の発行は行いません。

2) 複数の参加者の参加費をまとめる、後払いの手続きなど、請求書の発行は行いませんので、ご了承の程お願いいたします。

(4) 講演概要集・入場証

2026年8月上旬にご登録のE-mailアドレスに講演概要集公開サイトへのアクセス方法をお知らせいたします。2026年8月上旬以降に聴講申込した場合は、決済が完了すると講演概要集公開サイトへのアクセス方法をメールにてお知らせいたします。

2026年8月中にご登録のE-mailアドレスに入場証（QRコード付名札）をメールいたします。現地会場に入場するためには入場証（QRコード付名札）をプリントアウトしたものが必要となります。受付には、印刷用のプリンタの用意はありませんので、必ずプリントアウトした入場証（QRコード付名札）をご持参ください。会場内でも、プリントアウトできる場所はありません。

入場証（QRコード付名札）のメールが届かない場合は、2026年8月28日(金)までに[第81回年次学術講演会ヘルプデスク](#)へお問い合わせください。

現地受付の端末機で入場証のQRコードを読み取り、来場登録をしてください。大会3日間とも参加される方は、各日QRコードの読み取りを行ってください。また、会場内では必ず入場証をバスキースに入れて、氏名が見える状態で首にお掛けください（氏名が確認できない場合お声掛けさせていただく場合があります）。

入場証（QRコード付名札）のケースは会場に用意しております。

大会期間中も含めて聴講申込をしていただくことは可能ですが、アクセスが集中するとメール送信にタイムラグが生じる可能性がありますので、早めに（前日までに）お済ませください。現地会場に聴講申込用の受付はありませんので聴講申込やお支払いの手続きはできません。ご自身のパソコン、スマートフォンで聴講申込を行ってください。大会当日に聴講申込をされる場合は、入場証（QRコード付名札）の発行（メール送信）までに20-30分時間を要するため、入場するまでお待ちいただきますのでご注意ください。スムーズに入場いただくには、前日までに申し込みを行ってください。

●共通セッションテーマ

年次学術講演会では7部門に分かれたセッションを設けます、さらに、これらの7部門を越えた研究および複数の部門に関連する、研究のテーマを対象として、共通セッションを設けます。

本年度の共通セッションには、次の22件が仮テーマとして選定されました。共通セッションにおける講演を希望される方は、講演申込の際に第一志望欄に、希望するセッション名を選択してください。

また、仮テーマが成立しない場合のために、第2、第3志望欄に一般セッションの部門・名称を必ず選択してください。

共通セッションの最終的なテーマ名および構成は、講演申込完了後、全国大会委員会で決定されます。申し込み状況により、共通セッションを構成する講演数に満たない場合は、一般部門における発表とします。ご了承ください。

なお、共通セッションの講演概要も講演概要集に掲載されます。

CS1 土木教育一般

土木の分野においては、土木教育全般にかかわる課題に加えて、JABEE、継続教育、技術者倫理教育、技術者資格等人材育成関係の活動が活発に行われており、教育の重要性が広く認識されている。本セッションでは、これらの教育活動全般にかかわる課題を幅広く募集する。

※CS1 土木教育一般の他に研究関連セッションへの投稿もお考えの場合は、事務局全国大会係へお問い合わせください。

CS2 International Session 国際セッション(The 28th International Summer Symposium)

国際セッションでは留学生や日本人学生、若手技術者の英語による発表を広く募集致します。英語による発表をお考えでしたら国際セッションへの投稿をお願いします。

このほか「国際」という切り口による土木技術ならびに土木技術者に関する様々な視点、立場、考え方からの発表も歓迎します。

なお、国際セッションは国際センター・留学生グループ主催「インターナショナルサマーシンポジウム」の一環として実施します。

※国際セッションの論文は必ず英語で投稿してください。

※発表言語：英語

CS3 新設および大規模改修時における橋梁計画

橋梁の新設や大規模な改修を計画するに当たっては、本体の構造設計や材料選択のみならず、維持管理や社会的コストを含めた投資合理性、自然環境や景観への配慮、防災計画における位置づけ、契約方式や計画に対する合意形成等々、分野を超えた様々な要素を勘案した総合的な計画、技術的検討、および持続可能性への貢献ビジョンの提示が重要である。過去のプロジェクトを含め「橋梁」を切り口に幅広い議論の場としたい。

CS4 ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン(DEI)

土木界におけるDEI推進については、産官による行動計画や土木学会の行動宣言などが発表され、課題を抱えながらも各主体で取り組みが進められている。このような状況下で生じる課題や得られた知見を土木界全体で共有することは、継

続的な施策の実行に不可欠である。そこで本セッションでは、土木界におけるDEIに関する事例報告、分析、先行研究の紹介などの投稿を募集し、情報共有と知見の蓄積を図りたい。※CS4 ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの他に研究関連セッションへの投稿もお考えの場合は、事務局全国大会係へお問い合わせください。

CS5 計算力学・データサイエンス・V&V/UQ

次の各分野における計算技術の発展・展開に関する研究を募集する。(a) FDM, FEM, BEM, メッシュレス法等の解析手法。(b) 高速解法, アルゴリズム, 適応型計算法, モデル生成, 可視化手法, 並列計算, マルチスケール法等の計算力学手法。(c) 破壊問題, 大変形問題, 材料非線形問題, 接触問題, 動的問題, 波動問題, 固体流体連成問題, 乱流, 移動境界問題, 地球環境・気象, 災害・防災のシミュレーション, 騒音問題, 逆問題, 最適化・制御問題等への応用。(d) 上記(a)-(c)に対するデータサイエンスの応用, 並びに検証と妥当性確認, 不確かさの定量化。

CS6 複合構造物

複合構造は異なった材料の長所を組み合わせ、求められる性能に対して合理的で理想的な構造を実現しようとするものである。中でも、鋼とコンクリートの複合構造は活発に研究され実施例も多く一分野を形成するに至っている。一方、高分子系材料、新素材等、新たな異種材料による複合構造や補修補強工法も種々提案され、一般化されつつある。本セッションでは、これらの異なった材料を対等の視点で捉え、複合構造の適用可能領域を広げるのに役立つ発表と討議の場を提供する。

CS7 橋と社会

橋は社会において大きな役割を担っています。田中賞選考委員会では、橋のイノベーション・生産性向上、橋守、橋を活用した地域活性化・まちづくり、文化・歴史、教育・継承等、社会とのかけはし、未来へのかけはしとなりうる社会性や将来性のある講演を幅広く募集します。なお、同委員会では、年次学術講演会のいずれかのセッションで発表され、上

述の内容を有した優れた講演に対して、かけはし賞を授与しています。

CS8 無電柱化整備の計画と技術

無電柱化整備の更なる推進においては、コスト縮減や事業のスピードアップのための技術開発とマネジメント、効率的・効果的な整備計画手法や合意形成手法の確立、近未来社会への対応など、関連する様々な実務的課題に対して、学術的知見を総合的に蓄積・活用していく必要がある。そこで、本セッションでは、無電柱化整備に関連する計画論・技術論の研究や事例研究を広く募集し、最新動向を俯瞰しながら、分野横断的に幅広い視点で議論を行う。

CS9 土木分野における計測・センシング技術の利用と可能性

土木分野における計測・センシング技術の利用は、施工、維持管理に加え、防災、環境、さらにはスマートインフラの実現に向けたデジタルトランスフォーメーション（DX）の中核として、その重要性を増しています。特に、社会資本の老朽化対策、自然災害へのレジリエンス強化、持続可能な社会の構築に資する「データ駆動型モニタリングシステム」の開発と実装が喫緊の課題となっています。近年では、高精度な衛星測位システム（GNSS）、AI を活用した高度な画像解析、広域をカバーする光ファイバセンシング、小型・高性能な MEMS センサ、IoT デバイスとしての RFID など、多様なセンサ技術が進化し、5G/Beyond 5G といった高速・大容量通信技術やクラウドコンピューティングと連携したセンサネットワーク、さらにはデジタルツインとの統合も進展しています。本セッションでは、これらの最先端技術の応用、実証事例、そして将来展望に関する幅広い論文を募集します。

CS10 地震工学・地震災害

地震工学・地震災害（Ⅷ分野：分野横断）は各部門にまたがる多面的分野である。多様な専門性を有する研究者・実務者が分野横断的に議論することを目的とし、地震に関するセッションを統合した。構造物の耐震（橋梁、基礎、ダム、タンク、原子力施設、地中構造物、土構造物、港湾）、免震、制震、地震動、断層、液状化、津波、地震 PRA、危機耐性、地域安全などをキーワードとしてあげるが、地震に関するあらゆる投稿を歓迎する。

CS11 構造物の設計/維持管理における AI/DX

インフラ構造物の効率的な設計と維持管理のために AI を活用した技術開発と社会実装が進んでいる。また、インフラデータの分析と活用を通じた DX への取り組みが始まっている。本セッションでは構造物に関わる AI/DX の最新の取り組みを、基礎技術開発から、データ収集、開発プログラム検証、概念設計、社会実装と評価まで幅広く扱う。

CS12 放射性廃棄物・放射性物質汚染廃棄物等の処理・処分

原子力発電により発生する放射性廃棄物の処分では、大深度地下での建設や長期挙動予測といった技術的課題がある。また、福島第一原子力発電所の事故を契機に放射性元素を含む物質の保管や処理等の技術開発ニーズは一層高まっている。こうした技術開発等に関連する社会実装や理解醸成も欠かさない要素となっている。上記課題解決のためには、部門あるいは専門をまたぐ総合的な取り組みが求められることから、本共通セッションでは、放射性物質で汚染された土等や、放射性廃棄物の保管・処理・処分について幅広く募集し、技術的知見の集約と総合的議論を加速させる。

CS13 橋面舗装（舗装、防水層、床版を共に考える）

橋梁床版上の舗装（橋面舗装）は、重要路線に締める割合が高く、総交通量および大型車交通量が多いため、一般の土工部の舗装よりも多く損傷が発生している。橋面舗装は、床版、防水層、舗装で構成されるが、これらを一体に考えた長寿命化技術の議論や検討がほとんど行われてこなかった。このため、本セッションでは、橋面舗装に関する講演を募集し、床版、防水、舗装の部門をまたがる議論の場を提供するものである。

CS14 土木分野における AI の活用

近年の ICT の急速な発展に加え、人工知能（AI）技術は目覚ましい進化を遂げ、土木分野におけるその活用は、単なるデータ分析・予測を超え、新たなフェーズへと移行しています。IoT デバイスから収集される膨大なリアルタイムデータは、デジタルツインや BIM、GIS と統合され、高度な「見える化」とシミュレーションを可能にしています。機械学習、深層学習、コンピュータビジョン、自然言語処理、さらには生成 AI といった最先端の AI 技術は、これらのビッグデータを活用し、インフラの設計・施工の最適化、予知保全、災害予測と対応、スマートシティ計画、自律型建設機械の制御、新素材開発など、多岐にわたる課題解決に貢献しています。また、オープンデータや官民連携によるデータ融合は、より高精度で実用的な情報創出を加速させています。本セッションでは、土木分野における AI の最前線を議論するため、これらの革新的な AI 技術の応用、実証事例、倫理的側面、そして将来的な可能性に関する幅広い論文を募集します。

CS15 気候変動・地球環境問題

ー水工学委員会・地球環境委員会共催セッション

気候変動の緩和策・適応策をはじめ、様々な地球環境問題への取り組みは土木分野全体に共通する重要事項です。本セッションでは CO2 吸収コンクリートの導入や建設機器の CO2 排出抑制などのカーボンニュートラルに関する取り組みや、気候変動に伴う前線や台風に伴う豪雨災害の増加を踏まえた治水・利水・水環境等の保全、さらには土木構造物に与える影響分析などの適応に関する取り組み、さらには気候変動以外の地球環境問題に関する取り組みなど土木分野の研

究・実践に関する取り組みについて幅広く議論します。これらの分野を超えた研究の議論を通じて、分野横断的な研究の推進や、委員会間の連携の強化を目指します。本共通セッションは水工学委員会と地球環境委員会が共催しています。

CS16 地下空間の多角的利用

地下空間を有効利用するために、総合的な観点(都市計画、法制、経済性、心理、生理、防災、環境、建設、維持管理、歴史、文学等)から、地下空間の価値を議論することが本セッションの目的である。ここでは都市部に限らず、幅広く地下空間利用の実例について注目し、多角的な利用を推進するための新しい視点・技術の提案、最新の知見を駆使した計画・実例なども含めて、地下空間に関わる論文を募集する。

CS17 データ連携とプロセス改革

建設業界の DX は、既存のプロセスのなかで情報をデジタル化するだけでなく、それらのデータをプロセス間でシームレスに連携させ、さらには既存のプロセスをもデジタルに合わせて改革することで実現される。本セッションではそのような先進的な取組を集め、課題や効果を共有し、更なる技術革新に向けて議論する。

CS18 地域における建設産業のこれからのあり方

地方公共団体では土木技術者の不足が深刻である。技術系職員が全くいない市町村も 25%に達している。これからの地域のインフラの建設や維持管理には、地域を知り尽くした建設業の役割はとても重要である。地域における建設産業のこれからのあり方について次の視点で議論を深めたい。生産性向上と働き方改革、公民連携（PPP・PFI を含む）、土木技術者育成（リカレント教育を含む）、技術力向上（建設技術・維持管理技術）

CS19 道路橋床版・防水工・舗装の設計・維持管理に関する長寿命化技術

近年、道路橋床版の経年劣化や疲労損傷に対する長寿命化対策が喫緊の社会課題となってきています。本セッションでは、道路橋床版の長寿命化に向けて、床版のみならず防水工や舗装も含め、合理的な設計手法、効率的な点検・診断、新材料・新工法を活用した補修補強技術など、道路橋床版の設計や維持管理に関わる調査、工事適用、技術開発等に関する講演を広く募集し、様々な視点から討論を行います。

CS20 デジタルツイン・データプラットフォーム・DX

デジタルツインやデータプラットフォームについて、インフラ、建設、防災、都市、交通、環境、エネルギー、カーボンニュートラルなど多様な領域での取り組みを俯瞰的・横断的に取り上げます。構想やユースケース、実現化技術、利活用・事例や事業化、人材育成・教育など、理論や要素技術から試行・実践・社会実装まで幅広く対象とします。また、関連し

たデジタルトランスフォーメーション（DX）の研究開発や実践も歓迎します。

CS21 宇宙開発と土木技術

人類の活動領域のフロンティアとして、「月面」を開拓・利用しようとする議論が世界各国で本格化している。月面開発や月面基地建設の実現に向けた土木・建設分野への期待は高まりつつあり、国内においても関連する技術開発研究が活発化している。本セッション（主催：建設用ロボット委員会）では、調査（探査）、設計、計画、施工、建設材料など、月面における建設プロセスに関連する研究を広く募り、情報共有と議論の場を提供する。

CS22 CCUS（二酸化炭素回収・利用・貯留）

カーボンニュートラル実現への動きが加速する中、二酸化炭素の回収、利用、貯留技術（CCUS）の実現がますます重要になっている。CCUS は、CO₂の回収（化学吸収、物理吸収、膜分離）、CO₂の輸送（パイプライン、海上輸送）、CO₂の産業利用（化学品製造、燃料合成、炭酸塩鉱物化、地熱発電）、CO₂の地中貯留（帯水層、枯渇油ガス田）、海洋貯留、経済性評価、政策・規制、環境影響評価など、多分野にまたがる総合技術である。本共通セッションでは CCUS に関する最新情報の共有と議論の場を提供する。

●部門別セッション名

※各部門内のセッション名を整理し区分しました。その結果、セッション名が大きく変更となっている場合がありますのでご注意ください。

なお、従来のⅠ部門の合成構造、Ⅴ部門の合成・複合構造は共通セッションの複合構造物にご投稿ください。

※研究関連セッションの他に、「CS1 土木教育一般」「CS4 ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン」への投稿もお考えの場合は、各部門の会場をご確認の上、土木学会全国大会係 office2@jsce.or.jp へお問い合わせください。

第Ⅰ部門

【応用力学】 固体力学, 計算力学(構造), 計算力学(非構造), 計算力学(アルゴリズム), 弾塑性, 有限変位, 振動, 波動, 衝撃(解析), 衝撃(実験), 数値解析

【構造工学】 骨組・骨組部材, 薄肉構造, 板, シェル, 橋梁床

版, エキスパートシステム, 特殊構造, 最適設計, 安全性・信頼性, 維持管理, 構造計画, 構造景観, 構造同定, 診断・補修・補強, 宇宙構造物

【鋼構造】 座屈・耐荷力(桁), 座屈・耐荷力(柱), 座屈・耐荷力(板), 座屈・耐荷力(その他), 非破壊評価, 破壊力学, 疲労, 溶接, 接合, 継手, 橋梁一般(設計), 橋梁一般(施工), 橋梁一般(測定・モニタリング), 橋梁振動

【風工学】 耐風・風工学(数値流体), 耐風・風工学(基礎), 耐風・風工学(応答予測・制御), 耐風・風工学(事例報告・観測), 耐風・風工学(洋上風力)

第Ⅱ部門

【水理学・環境水理等】 流体力学, 数値流体力学, 乱流, 管路の水理, 水理構造物, 流体力, 密度流, 氾濫流の水理, 河口の水理・水質, 水圏の生態系(魚類・底棲生物・植生等), 水圏環境の保全・再生・創造, 物質輸送・循環(栄養塩類等), 構造物周辺の流れ・洗掘, 植生水理, 水理計測・観測手法, 河川環境構造物(魚道・人工生息場等)・水系土砂管理

【水文学・水資源】 地球環境問題, 自然共生, 水災害リスクマネジメント・危機管理, 都市の水・熱環境, 地球規模の水・エネルギー循環, 気候変動・社会変動と水循環, 国際的プロジェクト・国際協力, 流況制御, 流域管理・計画, 都市雨水流出管理・計画, 水災害・防災, 都市の水災害, 国際的水問題, 地下水理・地下水文, 水工情報システム, 水文・水循環計測, 水文統計, 流出・洪水, 水資源計画・管理, 大気水象(降水・雲), 大気陸面相互作用

【河川・湖沼・ダム】 河川の水環境(物理学的動態解析), 流砂(土石流, 泥流, 掃流, 砂浮, 遊砂, ウオッシュロード, 底泥), 河道の水理, 土砂の生産・流出, 流路・河床形態, 流路・河床変動, 河川地形, 河川工法, 河川計画・管理, 閉鎖水域環境(湖沼・貯水池)における物理学的動態解析, 閉鎖水域の水理(湖沼・貯水池), ダム堆砂・排砂, 開水路・複合水路(複断面・わんど)の水理, 拡散・分散

【海洋・港湾・海岸工学】 沿岸域の環境・生態系, 沿岸域のアーティファクト・人間工学, 波動, 砕波・遡上, 風波・不規則波, 高潮・津波・長周期波, 海底・海面境界過程, 沿岸域の流れ, 波力・流体力・氷力・地震力, 波・流れ制御・利用構造物, 海

岸・海洋・港湾・水産施設, 漂砂機構, 飛砂・飛沫, 海岸地形, 漂砂制御, 局所洗掘, 底泥の挙動, 海岸地盤, 海岸災害・防災, 海岸・海洋の資源・利用, 港湾・海岸計画

第Ⅲ部門

【地盤材料・一般】 土の物理化学的性質, 砂の変形強度, 粘土の変形強度, 土の動的性質, 土质地質, 岩の工学的性質, 試験法・調査法, 土質安定処理・地盤改良, 流動化処理土, 特殊土, 不飽和土

【地盤の挙動】 地盤の動的挙動, 圧縮・圧密, 地盤の応力と変形, 透水・浸透, 現場計測, 凍結・凍土, 数値解析, 地盤の性能評価

【地盤と構造物】 土圧, 地圧, 支持力, 杭, 基礎工, トンネル, シールドトンネル, 地下空洞と地下構造物, 地下利用, 掘削, 土留め, 補強土, 締固め, 路床・路盤, フィルダム, 施工機械, 維持・補修

【地盤防災】 斜面, 安全性・信頼性, 火山工学, 都市地盤情報, リスクマネジメント, 洗掘・侵食

【地盤環境】 廃棄物, 土壌地下水汚染, リサイクル

第Ⅳ部門

【土木計画】 計画理論, 信頼性・リスク分析, 社会・経済分析評価, プロジェクト評価, 計画情報・情報処理, 施工・維持管理計画, 防災計画, 災害分析

【国土・地域・都市計画】 都市・地域計画, 都市整備, 土地利用計画, 観光・余暇計画, パブリックインボルブメント・住民参加, 資源・エネルギー計画, 環境計画

【交通計画】 公共交通, 道路計画・道路設計, 鉄道計画, 空港・港湾計画, 物流計画, 地区交通, 駐車場・駅前広場, 歩行者・自転車交通

【交通現象分析】 交通調査, 交通行動分析, 交通ネットワーク分析, 交通サービス評価

【交通運用管理】 交通流, 交通制御, 交通事故, 交通安全, 高齢者・身体障がい者交通, 交通情報提供, 交通需要マネジメント, モビリティ・マネジメント

【景観・デザイン】 景観デザイン, 景観調査・分析, 景観認識, 景観評価

【土木史】 土木史

【測量】 測量・測位, 写真測量・画像計測, レーザー測量, 動体計測, リモートセンシング, 地理情報システム

【施工管理】 品質管理, 原価管理, 工程管理, 安全管理, 環境管理

【維持管理】 アセットマネジメント, 検査技術, 診断技術, 補修・補強, リニューアル, 軌道保守, 軌道保守 (検査・診断), 軌道保守 (補修・改良)

第Ⅶ部門

第Ⅴ部門

【土木材料】 リサイクル, 新材料・新工法 (材料), 骨材, 混和剤, 混和材, フレッシュコンクリート, 高流動コンクリート, 水中コンクリート, 軽量コンクリート (材料), 吹付けコンクリート, 短繊維補強コンクリート (材料), 連続繊維補強コンクリート (材料), 海洋コンクリート, 特殊コンクリート, 物性, 評価・試験方法, セメント化学, 引張・圧縮, クリープ・収縮, ひび割れ, 温度応力, 製造・施工, 品質管理・検査, ポンプ圧送, 締固め, 維持管理, 劣化予測, 耐久性一般, 耐火性, 複合劣化, 鋼材腐食, 防食, 塩害, 凍害, アルカリシリカ反応, 非破壊試験法, 補修・補強 (材料), 耐久性設計, 副産物利用・再生材料, 再生コンクリート, リニューアル, ライフサイクル (LCC・LCA), サステナビリティ, 環境配慮型コンクリート, カーボンリサイクル材料

【舗装工学】 路面評価 (舗装), 構造評価 (舗装), 構造設計 (舗装), 維持・修繕 (舗装), リサイクル (舗装), 環境保全 (舗装), 舗装材料, 路床・路盤, アスファルト系舗装, セメント系舗装, 特殊舗装, 舗装一般

【コンクリート工学/構造】 新材料・新工法 (構造), 軽量コンクリート (構造), 短繊維補強コンクリート (構造), 連続繊維補強コンクリート (構造), プレストレストコンクリート, プレキャストコンクリート, コンクリート製品, 補修・補強 (構造), 破壊力学, 曲げ, せん断・ねじり, 耐震, 振動, 耐震補強, 耐震診断, 付着・定着・継手, 疲労・衝撃, 数値解析, 構造設計, 構造物調査・診断

【木材工学】 木材・木質材料, 木材利用, 木材 (耐久性)

【環境計画】 環境影響評価, 環境リスク評価・管理, 地域環境計画・管理, 森林・植生, 環境創造・ビオトープ, 水資源・水需給, 国土・都市更新

【環境システム】 環境意識・環境教育, 環境倫理, 環境経済, 循環型社会, ライフサイクルアセスメント (LCA), 都市環境, 熱環境・エネルギー

【用排水システム】 生態工学, 浄水処理, 下水処理, 物理化学処理, 嫌気性処理, 膜分離・処理, 生物膜処理, 栄養塩除去, 上下水道管理, 都市雨水流出管理

【廃棄物】 汚泥処理技術, 廃棄物収集・処理・処分計画, 埋立処分場管理, 循環資源・リサイクル

【土壌・水環境 (魚類を除く生物学的・化学的な動態解析と環境改善技術)】 水質モニタリング・解析, 生態系モニタリング・解析, 水質浄化技術, 自然浄化機能, 水環境モデリング, 水辺環境計画・管理, 流域環境計画・管理, 底泥, 遺伝子工学, 毒性評価, 有害物質環境汚染, 内分泌攪乱化学物質, 土壌・地下水汚染 (分析修復技術), バイオレメディエーション

【大気環境・騒音振動】 大気モニタリング・解析, 大気浄化技術, 大気環境モデリング, 悪臭, 騒音, 振動, 酸性雨, 温暖化対策

第Ⅵ部門

【事業計画】 建設事業計画, 設計技術, 積算・調達, 入札・契約 (PFI・PPP)

【建設マネジメント】 建設マネジメント (PM・CM), リスクマネジメント, コスト縮減, 合意形成, 組織・人材育成

【施工技術】 施工計画, BIM/CIM, 建設ロボット・自動化, 情報化施工, 計測技術, GIS・リモートセンシング, 新材料, 河川・水路構造物, 港湾・海洋構造物, 空港, 橋梁, 開削トンネル, 地下構造物, シールドトンネル, シールドトンネル (シールドマシン), シールドトンネル (セグメント), 山岳トンネル, 山岳トンネル (覆工・吹付), 山岳トンネル (ICT・自動化), ダム, 各種基礎, 土留め・造成, 地盤改良, 耐震構造, 鉄道, 鉄道 (計測・解析), 鉄道 (施工機械), 環境 (リサイクル・土壌水

●講演原稿執筆要領

本文は、PDF ファイルによる電子投稿原稿作成の執筆要領です。土木学会全国大会ウェブサイトでも詳しく案内しています。

https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/gaiyo/youryo_genkou

1. 目的

講演概要集の目的は、聴講者の便宜のため、かつ来場できない会員に講演内容を伝えるために作成します。したがって、聴講者が研究の目的、考え方、手法および結論を理解できるように配慮してください。

2. データ書式

原稿は、Adobe Acrobat Reader を用いて変換された、PDF ファイルで提出して頂きます。ファイルサイズは5MB 以内とし、印刷した場合のページ数がA4判タテ型・2ページとなるよう原稿を作成してください（厳守です）。これを超えた原稿は受け付けられません。また、投稿するファイルはPDF 形式とし、圧縮ツールは使用しないでください。

なお、Adobe Acrobat Reader（アドビシステムズのホームページよりダウンロードできます）を用いて、作成したPDF ファイルの原稿が執筆者の意図したとおりに印刷されることを確認してください。

PDF 化にあたっての解像度の設定は制約を設けません。上記のファイルサイズ以内に納まる限り、執筆者の自由とします。ただ、印刷の場合を考慮すると、テキストおよび白黒ビットマップ画像の解像度は1200dpi程度、カラーおよびグレースケールのビットマップ画像（写真など）の解像度は300dpi程度が目安になります。（Adobe Acrobat Distiller4.0 もしくは5.0 におけるジョブオプションの「Print Optimized」に相当）

なお、講演概要集編集の障害となりますので、PDF ファイルにパスワードの設定は絶対に行わないでください。

3. 使用アプリケーション

原稿作成に使用するプラットフォーム／アプリケーションソフトは問いませんが、最終的に投稿するファイルはPDF 形式とし、Adobe Acrobat Reader で表示／印刷できるものとします。

PDF 化にはいくつかの方法がありますが、上記を満足する限り、執筆者の判断で適宜選択して頂いて結構です。

4. 用紙設定

A4 版・縦（210×297mm）とし、上下余白各18mm、左右余白各15mm を必ず確保してください。（上下余白は、柱、ページ記入に必要です。）

5. 書式

横書き、48 文字／行、42 行／ページ程度を標準とします。（2 段組でもよい）本文の文字の大きさは10 または10.5 ポイント程度としフォント、英数字はTime（Times New Roman）／Helvetica／Symbol などを、日本語は明朝、ゴシックなどを使用してください。

日本語フォントにおけるギリシャ文字（ σ δ ε など）の使用は可能ですが、機種／フォントに依存する特殊文字（①、②、Ⅰ、Ⅱ、 m^2 など）、半角カナおよびHG 系のフォントは文字化けの原因となりますので使用しないでください。

上記は、異種プラットフォームにおけるファイルの互換性を確保するために必要です

6. 表現方法

文字色は黒とします。図・表・写真などについては色の制約はありませんが、白黒プリンタに出力した際に問題が生じないように配慮してください。

なお、原稿の中に関連するウェブサイトへのリンクを作成しても構いません。

7. 書き出し

原稿の1 ページ目には、題目・勤務先・会員種別・氏名・本文の順に書いてください。

題名は第1 行の中央に配置してください。次に1 行あけて、勤務先・会員種別・講演者名（連名の場合は講演者（前に○印を記入）、連名者の順）を右側に寄せて書き、1 行あけて本文を書き出してください。

8. キーワード・連絡先

1 ページ目最下段に罫線を入れ、キーワード（6 語まで）および連絡先を記述してください。

9. 図・表・写真

図・表・写真などは原稿に張付けた状態でPDF 化することとし、別ファイルにしないでください。

10. 原稿の取扱い

原稿ファイルは申し込み時にアップロードしてください。

ただし、何らかのトラブルで原稿を再度アップロードしていただく必要が生じる可能性がありますので、原稿ファイルは削除しないで保存しておいてください。

11. 原稿受付期間

受付期間：2026 年3 月2 日(月)12 時～3 月31 日(火)17 時

提出先：土木学会全国大会ウェブサイトの年次学術講演会申込ページ <https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/>

※締切直前はサーバが大変混雑することが予想されるため、
できるだけ早めの申し込みをお願いします。

12. 採否

採否は全国大会委員会にご一任ください。

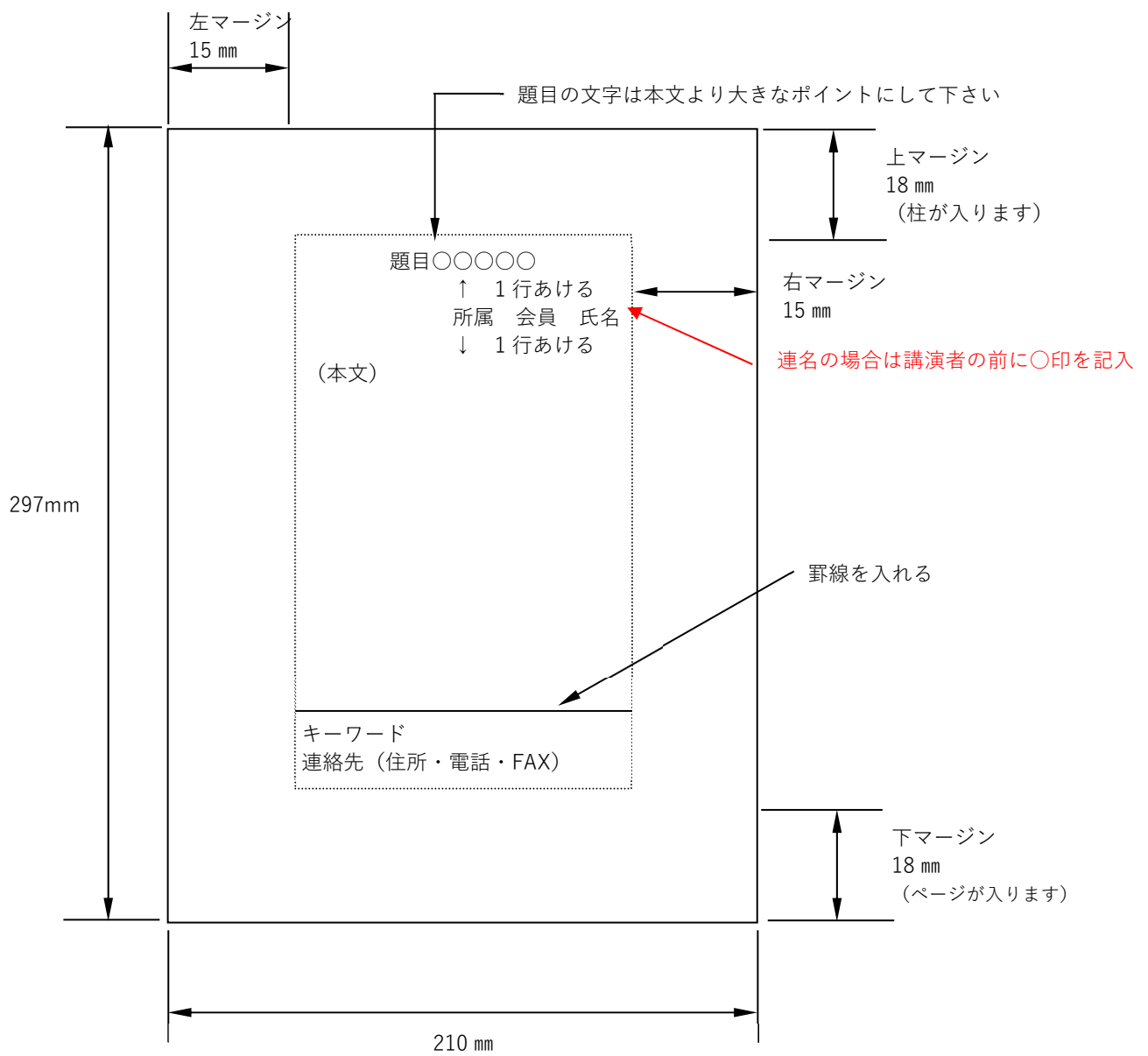
13. 講演原稿執筆要領に関する問合せ先

土木学会全国大会係 office2@jsce.or.jp

14. 原稿作成用テンプレート

<https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/gaiyo/download>

原稿の書式（1 ページ目）



注) 点線の囲み枠は印字いただく範囲を示したものですので原稿には不要です.